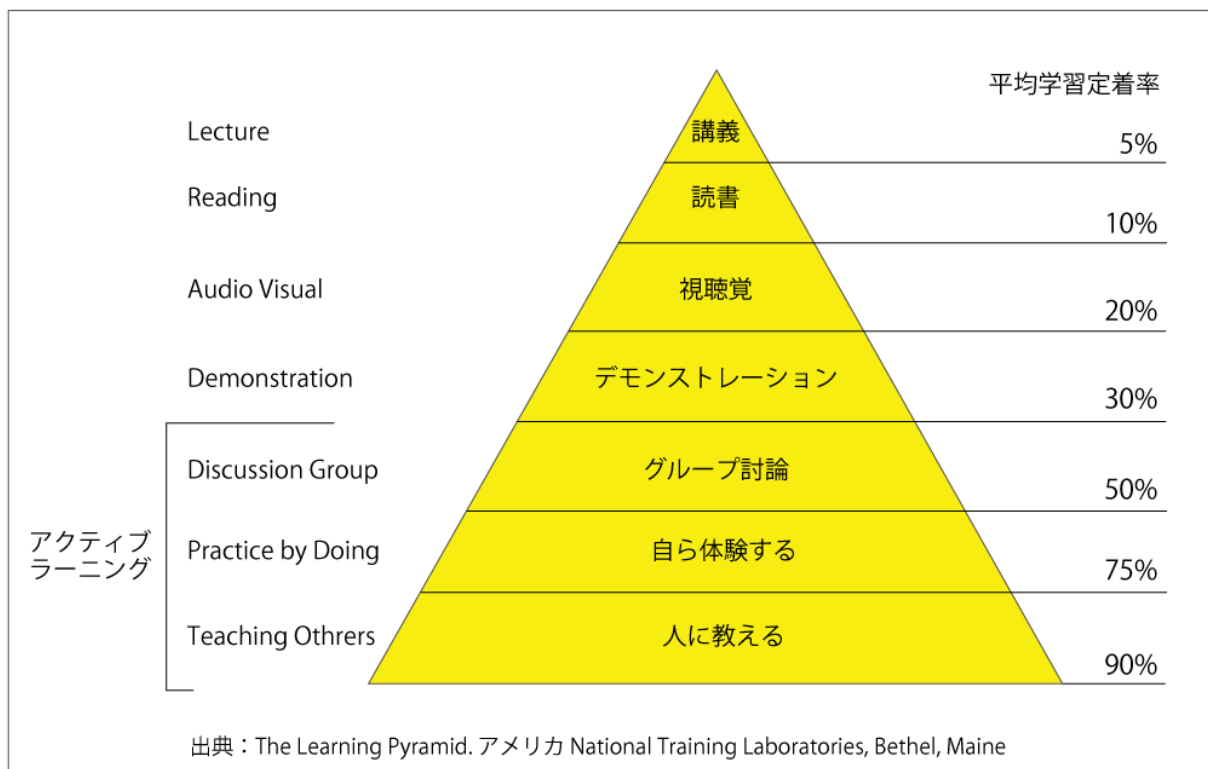


【参考】100分授業の授業手法

100分授業になることで、これまでの90分授業以上にアクティブ・ラーニングへの取り組みがしやすくなります。主には、反転授業（事前に予習課題を提示し、次の授業時に予習を行っていることを前提とした授業を行うことで授業へ主体的に取り組む）、グループディスカッション（授業を前半と後半に分け、講義とそれを受けてのグループディスカッションを行い授業への取り組みを主体的に促す。また反転授業を利用して、前半にグループディスカッションを行うことも授業への主体的取り組みにつながる）などが考えられます。双方向による授業手法により参加型授業が実現できます。

アクティブ・ラーニングの実施については、ラーニングピラミッドという理論モデルがあり、平均学習定着率を「講義 (Lecture)」は5%、「読書 (Reading)」は10%、「視聴覚 (Audio visual)」は20%、「実演によるデモンストレーション (Demonstration)」は30%、「グループ討論 (Discussion Group)」は50%、「自ら体験・経験する (Practice by Doing)」は75%、「人に教える (Teaching Others)」は90%とあります。より能動的・主体的に学習に関わることが学習の定着率を高めるとされています。科学的に立証されているわけではありませんので、定着率のパーセンテージの真意性は確かなものとは限りませんが、本学では、主体的・能動的な授業手法の考え方の一つとして捕らえます。



以上